

令和4年度

摂津市地域包括支援センター業務評価

摂津市

<目的>

摂津市が定めた運営方針等をふまえ、効果的、効率的な業務がなされているかについて、適切に評価を行い、その結果を活かしてより良い運営や活動に向けた取組の充実を図るとともに、不十分な点については改善に向けた取組を行っていくことを目的としています。

<項目>

「摂津市地域包括支援センターの運営の実施に係る方針」および「摂津市地域包括支援センター業務委託仕様書」に基づき、評価項目を設定しています。

<基準>

次の4段階で評価します。

- 「4」…指標以上に業務を実施できた。
- 「3」…指標通りに業務を実施できた。
- 「2」…業務を実施したが指標には至らなかった。
- 「1」…業務を実施できなかった。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響については、下記の通り評価します。

○当初の予定とは異なる形だが、工夫をして類似の対応を行った場合。

⇒業務を実施したものとして評価します。

- (例)・密集を避けるため、「はつらつ元気でまっせ講座」の場で健康づくりグループへの加入促進を行うことはできなかったが、健康づくりグループに加入するメリットをまとめた資料を作成し、講座で配付をしてもらった。
- ・集会等が中止・縮小されている都合で出前講座として出向くことはできなかったが、関係団体等に対して講座で知りたい内容をヒアリングし、資料を作成して、配布をした。

○新型コロナウイルス感染症の影響により遂行できず対応を行わなかった場合

⇒業務を実施できなかったものとして評価します。

<手順>

- ①地域包括支援センターが「摂津市地域包括支援センター評価表」を用いて職員全員で検討し自己評価を行い、市へ提出します。
- ②自己評価に基づくヒアリングを市が行います。
- ③ヒアリングをふまえ、市が「摂津市地域包括支援センター評価表」を用いて評価を行います。
- ④評価結果について、摂津市地域包括支援センター運営協議会が承認を行います。
- ⑤承認された評価結果を、市がホームページ等で公表します。

<期間>

令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

<時期>

令和5年4月

●「令和4年度摂津市地域包括支援センターの運営の実施に係る方針」に基づくもの●

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-----------------|---|---------------|---|---|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 1 地域包括ケアシステムの構築 | <p>・センターは地域包括ケアシステムの実現に向けた中核的な機関であることを、全職員が理解している。</p> <p>・地域包括支援センターの周知活動に努めている。</p> <p>[周知活動の具体的な内容]</p> <p>[各地区の民生児童委員、自治会、老人クラブ、各高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）への周知活動：それぞれ年1回以上]</p> | 3 | <p>・「地域包括ケアシステム」を理解できるように包括ミーティング等を活用し職員に伝えている。</p> <p>[周知活動の具体的な内容]</p> <p>・リーフレットの配架に加え、社協のホームページ、社協ニュース等を活用し、包括の業務内容の周知を行った。またYouTubeの配信も始めた。</p> <p>[各地区の民生民協 各中学校区1回、老人クラブ 1回、各高齢者通いの場（委託型つどい場 1回、リハサロン 2回）への周知活動]</p> | <p><課題></p> <p>・相談件数も増加しており、徐々に周知は広がっているが、支援を必要とする高齢者や家族へ包括の周知が行き届く必要がある。</p> <p><今後の取組></p> <p>・リーフレットの配架を引き続き行う。社協のホームページや社協ニュース、市の広報等を活用し業務内容等の発信を行う。</p> <p>・各団体に出向き情報発信に努める。</p> | 4 | <p>・地域包括支援センター内のミーティングで、同センターの業務内容を共有し、また事業計画や、運営協議会をはじめとした会議で出た意見を伝達・共有していることを確認しました。</p> <p>・周知にあたり、介護離職の防止に関する啓発マンガや動画配信サイトでの動画等、幅広い年齢層に関心をもっていただくための工夫を行っているため「4」としています。</p> <p>・老人クラブの総会等の機会を捉え、効率的な周知に取り組まれていることを確認しました。</p> <p>・市広報紙への定期的な地域包括支援センターに関する記事の掲載について協議を行い、令和5年度から掲載することになりました。</p> <p>・今後も引き続き動画投稿や、作成した媒体を用いた啓発などで周知を行ってください。</p> |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|--------------------------|--|---------------|--|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 2 地域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が集まる場に積極的に足を運び、実態把握を行っている。 ・地域ごとのニーズについて、センター内で情報共有を図り、検討を行っている。 <p>[地域ニーズにかかるセンター内ミーティングおよび社会福祉協議会地域福祉課とのミーティング：月1回以上]</p> | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染の状況を見ながら可能な限り高齢者の集まる場所に出向いた。 ・月1回社協係長ミーティングを行い連携を図っている。 ・2か月に1回、地域福祉課CSWやライフサポーターと情報共有を行っている。 <p>[地域ニーズにかかるセンター内ミーティング 月1回、社会福祉協議会地域福祉課とのミーティング2か月に1回]</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で思うように訪問が出来なかった。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、社協内の連携を密に図る。 ・必要に応じて関係機関等とWEB等を活用し情報の共有を図る。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会地域福祉課及びCSWに加え、ライフサポーターとも情報共有を定期的に行っていることを確認しました。 ・引き続き、支援を必要とする世帯の早期把握と情報共有を行ってください。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-----------------------|---|---------------|--|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3 地域社会との連携及び専門職との連携構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議、認知症支援プロジェクトチーム会議、在宅医療・介護連携推進のための多職種連携研修会、暮らしの応援協議会（協議体）等の機会を活用し、地域社会や専門職と共通認識を持つことに努めている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議個別ケース会議を3回開催。地域ケア会議全体会議は各中学校区1回開催、認知症プロジェクトチーム会議を5回、コアメンバー会議3回開催し地域の事、高齢者の実情について関係者で話合った。 ・生活支援コーディネーターと連携しケアマネジャー向け研修会を開催。それぞれの役割の理解を深めた。 ・多職種連携研修会、暮らしの応援協議会が開催されなかったため、情報共有等の機会が無かった。 | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会や専門職と共通認識を持ち機会を増やす必要がある。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出向く機会を増やし、情報発信や連携の強化を図る。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種会議で、地域や高齢者のことについて、地域住民や専門職と話し合いを行っていることを確認しました。 ・引き続き、各種会議での意見交換等を通じて、地域住民や専門職との連携を密にさせていただくことを期待します。 |
| 4 介護予防ケアマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防ケアマネジメントにおいて、本人の持つ能力・興味・関心を引き出し、本人が自立的に取り組めるように努めている。 ・現行相当サービスのみならず、訪問型サービスA、訪問型サービスD、通所型サービスC、一般介護予防サービスの活用を図っている。 [訪問Aの活用件数：実数で年5名以上] [訪問Dの活用件数：実数で年12名以上] [通所Cの活用件数：実数で年30名以上] [高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）の活用件数：実数で年12名以上] [保健センター職員によるケアプラン作成に対する技術的助言の活用件数：実数で年5名以上] | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問Aや通所Cを積極的に活用した。（下記、活用件数参照） ・ケアマネ部会を活用し通所Cの研修会を開催した。 ・地域包括のリーフレットにつどい場の案内を付加し、相談対応時に説明し配布した。 ・高齢者通いの場を紹介した件数6件の内、利用に繋がった件数は1件となっている。 <p>[訪問Aの活用件数：17名]</p> <p>[訪問Dの活用件数：12名]</p> <p>[通所Cの活用件数：67名]</p> <p>[高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）の活用件数：1名]</p> <p>[保健センター職員によるケアプラン作成に対する技術的助言の活用件数：18名]</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談の多くは介護サービス利用を希望されており、高齢者通いの場を案内しても利用に繋がらないことが多い。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、訪問型サービスA、訪問型サービスD、通所型サービスC、一般介護予防サービスの活用を図る。 ・高齢者通いの場の利用を意識する。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問A、訪問D、通所C等、多様なサービスを活用していることを確認しました。 ・令和3年度に地域包括支援センターがケアマネジャーに行った通所Cの利用状況に関する調査から、通所Cの活用にはケアマネジャーの理解が必要であることがわかり、ケアマネ部会で研修会を実施したことを確認しました。 ・訪問Dの活用にあたり、市や実施団体に具体的な利用方法や疑問点などを確認し、積極的に活用を図ろうとしていました。また、ケアマネジャーから地域包括支援センターによせられた質問を市に共有する等、活用促進に向けた取組を確認しました。 ・高齢者通いの場の活用について、相談時の案内でつながった人数は1名であるものの、通所C終了後につながった人が26名いることを確認しました。 ・地域包括支援センター職員として活用するだけでなく、ケアマネジャーのより幅広い活用に向けて、研修会や調整を行っていることから「4」と評価しています。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|--------------------|--|---------------|--|---|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 5 介護支援専門員に対する支援・指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員個々人の自主性を尊重し、介護支援専門員個々人の気づきを促している。 ・積極的に介護支援専門員への情報提供を行うとともに、ケアマネジメント支援・指導を行っている。 <p>[ケアマネジメント支援・指導の件数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員からの困難事例の相談に対して具体的な助言を行っている。 <p>[困難事例相談の対応件数]</p> | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員からの相談に対し包括内で経過を確認している。 ・困難事例等は3専門職で検討し経過を確認している。 ・居宅介護支援事業所の閉鎖、居宅介護支援事業所の介護支援専門員の退職等で委託先から包括直営や他の委託先への変更等で連絡調整を要する件数が多く発生した。 <p>[ケアマネジメント支援・指導の件数 1,930件]</p> <p>[困難事例相談の対応件数 62件]</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの研修会は実施できたが、対面開催を予定していた主任介護支援専門員連絡会がコロナ感染拡大で開催することが出来なかった。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインと対面での研修会を実施し摂津市内の介護支援専門員のスキルアップや情報提供を行う。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員からの困難事例の相談について、家族が課題を抱えている事例や本人がサービスを拒否している事例に適切に対応していることを確認しました。 ・ケアマネジメント支援・指導については、要支援者のプランの作成委託にあたり、計画内容や目標設定等について確認を行い、目標の見直しが必要と感じた場合には、口頭やメモで助言や指導を行っていることを確認しました。 |
| 6 地域ケア会議の運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケース会議を随時開催し、個別事例の課題を解決し、フォローアップを行っている。 <p>[個別ケース会議を活用した対応件数：年15件以上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員の資質向上の視点を持ち、各介護支援専門員が年に1回は個別事例を提供するよう働きかけを行っている。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大の波があり、個別ケース会議の開催が困難であった。 <p>[個別ケース会議を活用した対応件数：3件]</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員に対し個別ケース会議の活用事例等の情報提供が出来なかった。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー部会等を活用し、個別ケース会議の対応事例等の紹介を行う。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケース会議の開催回数が少ないため「2」としています。ただし、市において個別ケース会議の見直しの方向性を具体化できなかったことも一因と考えています。 ・市においても、今後、どのような事例で個別ケース会議を開催するかを再考中です。市の方針が決まり次第、意見交換を行い、個別ケース会議の活用や、個別ケース会議を通じて地域課題の検討につなげられるようにしていただければと考えています。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-------------|---|---------------|---|---|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| | <ul style="list-style-type: none"> さまざまな関係者が意見を述べるができるように努めている。 [中学校区全体会議：各校区年1回以上] 個別ケースの検討のみならず、その背景に存在する地域課題の把握を行うという視点を持っている。 決定事項を構成員が共有する仕組みを講じている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 全体会議をハイブリットにて各中学校区で開催。個別ケース会議の報告、地域や専門職との意見交換の機会を持った。また、居住支援法人やよりそいクラブの活動、ひとり歩き声かけ模擬訓練等の周知を図った。 [中学校区全体会議：各校区1回] | <ul style="list-style-type: none"> <課題>引き続き参加しやすい開催方法を検討する。 <今後の取組> <ul style="list-style-type: none"> 会議の開催時期等の検討を行う。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 中学校区全体会議を会場とWebを併用したハイブリット開催で実施したことを確認しました。 中学校区全体会議において、センター記入欄に記載された内容の周知を行っていることを確認しました。 周知とあわせて、関連する地域課題やその解決に向けた意見交換が行われるような会議の構成を意識してください。 |
| 7 市との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 市への報告、連絡、相談を適宜行い、情報の共有を図っている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 月1回地域包括連絡会を実施。必要時は適宜、市への連絡、相談、情報共有等を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き連携を密に図る。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 月1回の連絡会にて、必要な情報共有等は行っております。 その他、必要時に適宜、市への連絡や相談等が行われています。 |
| 8 公正・中立性の確保 | <ul style="list-style-type: none"> センターは公正・中立でなければならないことを全職員が理解している。 サービスが特定の事業者に偏らないよう配慮している。 [訪問介護および通所介護のサービス事業者占有率が50%未満] センター職員以外が事務所内に入らないようにしている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 全職員に対し、包括ミーティング等を活用し公正・中立な立場で業務を行うことを伝え、全職員が理解している。 包括から依頼するサービスが特定の事業所にサービスが偏らないように留意している。 センター職員以外が事務所内に入らないようにしている。 <p>[訪問介護および通所介護のサービス事業者占有率が50%未満]最も高い占有率：訪問介護14.65% 通所介護16.55%</p> | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き包括ミーティング等を活用し公正・中立であることを理解し業務に努める。 引き続き、センター職員以外は事務所に入らないように注意する。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターから依頼するサービスについて、特定の事業所に偏らないようにしていることを確認しました。 引き続き、特定の事業者に偏らないよう、配慮をしてください。 |
| 9 緊急時の態勢整備 | <ul style="list-style-type: none"> 夜間・休日の連絡態勢を整備している。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括のリーフレットや社協のホームページに夜間や休日の連絡先を記載している。また緊急連絡網の作成も行っている。 緊急時は①緊急当番職員②センター長③総括主査が対応を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> <ul style="list-style-type: none"> 社協の体制上可能な対応を継続する。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 夜間や休日の緊急対応については、市宿直より高齢介護課または地域包括支援センターへ連絡が入る体制となっており、市・地域包括支援センターが連携して対応できる体制としています。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|------|-------|---------------|------|----------|------|-------|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |

●「令和4年度摂津市地域包括支援センター業務委託仕様書」に基づくもの●

包括的支援事業

| ①介護予防ケアマネジメント業務（第一号介護予防支援事業） | | | | | | |
|------------------------------|--|---|--|---|---|---|
| 介護予防ケアマネジメント | 上記の「4. 介護予防ケアマネジメント」に記載。 | — | — | — | — | — |
| ②総合相談支援業務 | | | | | | |
| 1) 様々な関係者とのネットワークの構築 | ・ライフサポーター、民生児童委員、ボランティア、介護保険事業者、医療関係者とのネットワーク構築を行っている。 | 3 | <p>ライフサポーター、CSW、生活支援コーディネーター、ボランティア、民生委員、介護保険事業者連絡会、医療関係者と連携を図っている。</p> <p>・各中学校区の地区民協に参加し連携を図っている。</p> <p>・居住支援協議会に2回、消費者安全確保地域協議会に3回参加しネットワークを広げている。</p> <p>・摂津フレイル予防ネットの活動に向け、説明会、講演会に参加をした。</p> | <p><課題></p> <p>・問題解決のために市内外のネットワークの構築が必要。</p> <p><今後の取組></p> <p>・重層的な課題解決のため、会議等に積極的に参加し、ネットワークを広げる。</p> <p>・フレイル予防ネットの対象者に向け、社会資源等の提案を行い、地域での生活が継続できるように働きかける。</p> | 3 | <p>・居住支援協議会、消費者安全確保地域協議会、重層的支援体制の整備に向けた担当者会議の参画等、公的機関とのネットワーク強化につながるものと評価しています。</p> <p>・地域との連携については、地区民協の他、地域ケア会議も活用し、必要なネットワークや課題を検討して下さい。</p> |
| 2) 高齢者世帯の実態把握 | ・孤立している高齢者や重層的な課題を抱えている高齢者等、潜在する高齢者の把握を行っている。 [問題が潜在する高齢者の把握件数] | 3 | <p>・孤立、重層的課題を抱える等、問題が潜在する高齢者は増加している。</p> <p>令和4年度は居宅介護支援事業所、ライフサポーター、民生委員等が先に高齢者を把握し、包括に相談が入り、包括が関係機関と連携し支援を行う件数が多くあった。</p> <p>[問題が潜在する高齢者の把握件数 1件]</p> <p>・対応例：独居。体調が悪く、市外の息子が介護を行うも状態が悪化。医療機関未受診のため、往診医の情報提供や介護保険の説明等、息子に寄り添いサポートを行った。</p> | <p><課題></p> <p>・支援を拒否する高齢者や家族が増加している。</p> <p><今後の取組></p> <p>・引き続き地域で孤立し、重層的な課題を抱えている高齢者や家族を支援するために関係機関との連携、情報共有を行い、継続的な支援体制を図る。</p> | 3 | <p>・ライフサポーターや民生児童委員との情報共有により、実態を把握できていることを確認しました。地区民協で地域の声を拾うことも意識してください。また、市としても民生委員やライフサポーターとの情報共有を強化できるよう努めます。</p> |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-----------------|--|---------------|--|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3) 初期段階の相談対応 | <ul style="list-style-type: none"> 相談に速やかに対応し、信頼関係の構築に努めている。 いつでも緊急性の判断を行えるよう、チェックリスト等の活用を行うとともに、専門性をふまえた対応を行っている。 緊急性が高いと判断した際に、速やかに訪問するなど適切な対応ができています。 <p>[緊急性が高いと判断し、訪問を行った件数]</p> | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 相談者との信頼関係構築を意識し対応を行っている。 「立てない。動けない」「食事が取れていない」等の早急な対応が必要な事例や虐待等の権利侵害の相談が多い。緊急性が高い場合は速やかに対応を行い、関係機関とも連携を図っている。 <p>[緊急性が高いと判断し、訪問を行った件数：11件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応した1例 <p>市役所生活支援課より連絡。独居。前日に国保年金課の職員と話した際に本人より「歩けない、生活が苦しい」との発言あり。国保年金課から生活困窮担当者に相談が入った。生活困窮担当者が訪問した際、身体状況が悪く、包括に連絡が入る。包括の看護師が生活困窮担当者と訪問し、救急車の要請を説得するも本人が拒否。その後も本人の様子を生活支援課と連携し確認。3日後に本人の了解を得て、救急搬送を行った。</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 3専門職が専門分野以外の対応もスムーズに行える必要がある。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な緊急事態に対応できるように事例の報告、対応等を包括ミーティングにて周知を図る。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 緊急性が高い案件の増加に対し、他機関とも連携し、継続的に対応できたことを評価します。 構築したネットワークを活かし、さらなる連携強化、情報発信による予防にも努めてください。 |
| 4) 継続的・専門的な相談支援 | <ul style="list-style-type: none"> 策定した支援方針を記録に残し、それに基づいた支援を行っている。 個別の支援に関する悩みや困っていることについて、常に3専門職がチームとして話し合う機会を設けている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの専門職チーム内での検討や3専門職での検討を行い、支援の方針等を検討し支援経過に記録し支援を行っている。 | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 3専門職での検討を要する相談や要支援認定者増加により検討する時間が充分に取れない。 関係機関と可能な範囲でWeb会議ツールを活用し連携を図る必要がある。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携を密にする。 包括ミーティングで事例検討を行い、個々のスキルアップを図る。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 個別事例に対し、常に専門職間で相談しながら支援方針を検討していることを確認しました。 引き続き、個々の事例に対し、個々の職員が適切なアセスメントを行えるようスキルアップにも取り組んでください。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|----------------|--|---------------|--|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| ③権利擁護業務 | | | | | | |
| 1) 高齢者虐待への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が高齢者虐待防止法を理解しており、説明できる。 ・チームで役割分担を行っている。 ・本人だけでなく養護者への支援も行っている。 ・高齢者虐待防止の早期発見につながるための啓発活動を市と連携して行っている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会内で高齢者虐待を含む権利擁護について内部研修を実施している。 ・社協ニュースとホームページで介護者支援の情報を掲載した。 ・情報共有をし、主担当不在時も迅速な対応ができる体制をとっている。 ・虐待のリスクが高い事例に対しては頻繁に介護支援専門員等の関係者と情報共有を図り、早期発見に努めている。 ・市主催の高齢者権利擁護研修に参画している。 | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民や介護支援専門員へ的高齢者虐待防止の啓発活動の機会が少ない。 ・虐待対応に対する全職員のスキルアップの機会がない。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止についてチラシ配布とYouTube配信を使って市民や介護支援専門員等の関係機関に周知する。 ・介護支援専門員を対象とした虐待防止の研修を開催する。 ・包括の社会福祉士間で虐待事例の振り返りを行う。 ・全職員の対応力向上を図るため包括ミーティングで虐待対応のポイントを周知する。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・虐待事案について、介護支援専門員と密に連携し、またその内容も社会福祉士間で十分に共有した上で対応されていました。 ・また、市主催の高齢者権利擁護研修では、打ち合わせ段階から市や講師と連携していただきました。 ・今後は包括主催の介護支援専門員を対象とした虐待防止研修の実施をしてください。 |
| 2) 成年後見制度の活用促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が成年後見制度を理解しており、説明できる。 ・相談に適切に対応し、申立の支援を行っている。 <p>[成年後見申立の支援件数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者や関係機関に成年後見制度に関する啓発活動を市と連携して行っている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会内で成年後見制度を含む権利擁護について内部研修を実施している。 ・市民や支援者からの成年後見制度についての相談に対応し、申し立ての支援を行っている。 [成年後見申立て支援件数20件] | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浪費や身体状態の悪化、家族間に課題がある場合など、制度に該当しない内容の相談があり、成年後見制度の理解が進んでいない。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布とYouTube配信を使って成年後見制度について周知する。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見申立支援が必要な事案について、社会福祉士間で十分に共有した上で他機関とも連携して対応されました。 ・地域の高齢者や介護事業所等に成年後見制度に関する啓発活動を行えないため「2」としています。 ・令和4年度については、市からの協力依頼が行っていませんでしたが、市では成年後見制度についての市民向け講座を実施しています。今後、開催の際には情報提供をしますので、センターに来られる方等に案内をしていただくなど、連携して啓発をしていただければと考えます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-------------|---|---------------|---|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3) 消費者被害の防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の動向を把握している。 ・消費生活相談ルームや警察等との連携を行っている。 ・地域の高齢者や関係機関に消費者被害に関する啓発活動を市と連携して行っている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・消費者安全確保地域協議会に3回参加し関係機関との情報共有や消費者被害の動向を把握している。 | <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊詐欺の被害が増えている。 <今後の取組> チラシ配布とYouTube配信を使って消費者被害について周知する。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・消費者安全確保地域協議会にすべて参加し、消費生活相談ルームや関係機関との情報共有や消費者被害の動向を把握されていました。 |
| 4) 措置の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・市が行う老人福祉施設等への措置の支援として、訪問調査による事実確認等を適宜行っている。 | — | 措置の支援を行う事例が無かった。 | <今後の取組> <ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族への聞き取りや関係機関等からの情報収集等を市と協力して行う。 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・市が行う老人福祉施設等への措置の際に、措置を実施するまでの経過において、必要に応じた連携をお願いします。 |
| 5) 困難事例への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・困難事例の情報共有を行い、対応終了後に事例のふり返りを行っている。 ・解決にむけて関係機関と連携している。また、その関係性を継続するための取組を行っている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門職で協議し問題解決を図っている。 ・包括ミーティングを通じて事例検討を行い今後の対応に活かせるよう共有している。 | <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・多問題、支援拒否の利用者や家族が増えている。 <今後の取組> 関係機関や行政、社協、法律の専門家と連携し問題解決を図っていく。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・困難事例について、専門職内で問題解決に向けた対応を検討されました。 ・今後の対応にも活かすため、必要に応じて振り返りも実施してください。 |
| 6) 研修会の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業所職員や市民等を対象とする、高齢者権利擁護にかかる研修会や出前講座を開催している。 [研修会開催の回数：年1回以上] [出前講座開催の回数：年5回以上] | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護事業所に対し、高齢者虐待防止研修会を1回実施した。 ・介護保険事業者に対し「虐待への気づき（養護者支援の立場から）研修会」をオンラインにて開催した。 [研修会開催の回数：2回] <ul style="list-style-type: none"> ・市開催の高齢者権利擁護研修に協力している（打ち合わせ含め年5回） | <課題> 出前講座の要請がなかった。 <今後の取組> 地域に出向き権利擁護にかかる出前講座を実施する。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業所等への研修を実施されました。 ・市主催の高齢者権利擁護研修では、打ち合わせから当日まで、市や講師と連携していただきました。 ・地域への研修を今後検討してください。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|----------------------------|---|---------------|---|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| ④包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 | | | | | | |
| 1) 包括的・継続的なケア体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や介護保険事業所との連携体制を得られやすいような働きかけを行っている。 ・様々な社会資源を活用できるよう地域の連携・協力体制の整備を図っている。 ・介護保険事業所職員や市民を対象とする研修会や出前講座について、計画書を市へ提出し、開催している。 [研修会開催の回数：年2回以上] [出前講座開催の回数] | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険関係職員と障害福祉関係職員等との事例検討会をオンラインにて開催した。 ・主任ケアマネジャー・ケアマネジャーに対し「生活支援コーディネーター研修会」並びに摂津市介護保険事業者連絡会と共催で「スーパービジョン研修会（基礎編）」をオンラインにて開催した。 ・三島圏域リハビリテーション連絡会・研修会に参画し「コロナ禍における認知症対応」についての意見交換会等に参加した。 ・リハサロンに出向き、介護保険制度、福祉用具の活用について説明を行った。 [研修会開催の回数：3回] [出前講座開催の回数 1件] | <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により出前講座等の開催回数が少ない。 <今後の取組> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン、対面等効果的な研修会の開催を行う。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・研修会について、ケアマネジャーや関係機関のニーズや現状を踏まえた上で実施していることを確認しました。また「生活支援コーディネーター研修会」については、研修会後にケアマネジャーから生活支援コーディネーターへの問合せにつながるなど、社会資源の活用につながっていました。 |
| 2) 地域における介護支援専門員のネットワークの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・主任介護支援専門員間の連携を図るとともに、ケアマネジャー部会の支援を行っている。 [主任介護支援専門員連絡会開催の回数：年1回以上] | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・主任ケアマネ連絡会の開催はコロナ感染拡大により延期となったが、主任ケアマネジャー連絡会研修会を開催した。 ・ケアマネ部会（オンラインにて2回）の開催の支援を行った。 | <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・対面での連絡会の開催が出来ず、主任介護支援専門員間の連携が充分図れなかった。 <今後の取組> <ul style="list-style-type: none"> ・場合によりオンラインや対面での研修会や連絡会の開催を実施する。 ・ケアマネジャー間の情報交換を行う。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ部会の開催支援として、部会内での勉強会のテーマの検討への協力や講師の調整などの支援を行っていることを確認しました。 ・主任ケアマネジャー向け研修として「スーパービジョン 基礎編」を実施したことを確認しました。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-------------------|--|---------------|--|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3)介護支援専門員に対する個別支援 | 上記の「5. 介護支援専門員に対する支援・指導」に記載。 | — | — | — | — | — |
| ⑤地域ケア会議推進業務 | 上記の「6. 地域ケア会議の運営」に記載。 | — | — | — | — | — |
| ⑥在宅医療・介護連携推進業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・「在宅医療・介護連携推進事業」企画会議に参画し、センターの役割を発揮している。 ・在宅医療・介護連携推進のための多職種連携研修会に参画している。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療介護連携推進会議に参画しセンターが把握している情報を発信している。 ・多職種連携研修会の開催が無かった。 ・ケアマネシール、医療連携シートの活用を積極的に行った。 | <今後の取組> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ケアマネ情報シール、医療連携シートの活用を行う。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「在宅医療・介護連携推進事業」企画会議に参画し、意見交換に参加していました。 ・地域包括支援センターとして、ケアマネ情報シールについて、すべての利用者に説明を行い、お薬手帳を所持し、シールの貼り付けに同意をいただける人については、全員活用をしていることを確認しました。 ・「地域多職種連携の会」に一部の職員が参加していることを確認しました。関係者向けの後日配信等を用いて、より多くの職員が会の内容を知ることが期待します。 |
| ⑦生活支援体制整備業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターとの連携を図っている。 ・暮らしの応援協議会（協議体）に参画している。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーター、有償ボランティア「よりそいクラブ」の活動報告を受け、包括内で情報共有を図った。 ・ケアマネジャーを対象に生活支援コーディネーター業務についての研修会を開催しケアマネジャーと生活支援コーディネーターとの連携を深めた。 | <今後の取組> ケアマネジャーに対し、今後も情報発信を行う。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援の中で、状況に応じて生活支援コーディネーターと相談の上「よりそいクラブ」を活用していることを確認しました。 ・生活支援コーディネーターからの高齢者の支援に関する相談があった際には、必要に応じて協力して支援していることを確認しました。 ・ケアマネジャー向けの研修会は、研修会後にケアマネジャーから生活支援コーディネーターへの相談が増えるきっかけとなりました。今後も関係者の連携を強化する研修の企画を期待します。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|---------------------|--|---------------|---|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 一般介護予防事業 | | | | | | |
| 1)介護予防講座の普及・啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ・「はつらつ元気でまっせ講座」や「高齢者通いの場」等の普及・啓発を図っている。 〔「はつらつ元気でまっせ講座」や「高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）」の普及・啓発の件数：年3件以上〕 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・窓口来所の方に高齢者通いの場の利用を提案する（年6件）。 ・相談者だけでなく、そのご家族や近隣の方も対象として、高齢者通いの場と訪問Dを普及するリーフレットを作成。窓口相談来所された方へ配布。地区民協やサロンでも配布した。 ・社協ニュースにはつらつ元気でまっせ講座の参加を啓発する記事を掲載した。 ・市民を対象とした「笑いヨガ講座」を対面にて開催した。 ・関係機関との連携のもと、市民を対象に全11回の健康ダンス教室を開催した。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> ・窓口来所の方で、高齢者通いの場を案内可能な方が限られている。 <今後の取組> ・地区民協などで市民を対象に介護予防の啓発をする。 ・高齢者通いの場と訪問Dを普及するリーフレットは保健センターに配架依頼する。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・社協ニュースでの「はつらつ元気でまっせ講座」の啓発は、講座の啓発だけでなく、コロナによる機能低下の防止の必要性を訴える良い内容でした。引き続き、必要性を訴える普及・啓発を期待します。 ・日本ストリートダンススタジオ協会と協力して健康ダンス教室を開催した等、介護予防の推進に向けて積極的な取組をされていたため「4」としています。 |
| 2)介護予防講座自主グループ化への支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・「はつらつ元気でまっせ講座」に積極的に参画することで受講者への働きかけを行い、自主グループ化への支援を行うとともに、健康づくりグループへの加入促進を行う。 〔健康づくりグループへの加入促進数：すべての受講者数〕 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「はつらつ元気でまっせ講座」の開催連絡があった2グループに訪問し、健康づくりグループへの加入を促した。うち、1グループは健康づくりグループに所属していた。□ ・健康ダンス教室参加者に対して、健康づくりグループへの加入促進を行った。 〔健康づくりグループへの加入促進数3グループ：すべての受講者数61名〕 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> ・取り組みの継続が必要。 <今後の取組> ・地区民協などで市民を対象に「はつらつ元気でまっせ講座」の啓発をする。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「はつらつ元気でまっせ講座」を受講した2つのグループと、健康ダンス教室の参加者に対して、健康づくりグループへの加入を促していることを確認しました。 ・市が実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、周囲の人とのつながりがっていると感じている人は幸福度が高い傾向にあります。自主グループ化や、他グループとの交流の機会を作れる健康づくりグループへの加入は、つながりづくりのきっかけとなるため、今後も継続的な取組を期待します。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|---|--|---------------|--|--|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3)「せつつきいき健康づくりグループ」メンバー、老人クラブ、民生児童委員等、地域で活動する組織に働きかけ、介護予防活動を活発に行えるよう、支援を行っている。 [支援の件数：年3件以上] | ・「せつつきいき健康づくりグループ」メンバー、老人クラブ、民生児童委員等、地域で活動する組織に働きかけ、介護予防活動を活発に行えるよう、支援を行っている。 [支援の件数：年3件以上] | 3 | ・転倒予防・高齢者の家庭内事故に関するリーフレットを作成した。老人クラブ総会、地区民協、健康づくりグループ、リハサロン、健康ダンス教室参加者に啓発をした。市民間で情報共有をするために追加で資料がほしいと申し出もあり、介護予防の一環として活用されている。□ ・介護予防について、地域の方へどういった内容が知りたいかのアンケートを実施。142件の回答があり、認知症予防について知りたいという要望が最も多かった。 | <課題> ・介護予防活動が活発に行えるよう支援を継続していく必要がある。 <今後の取組> ・今年度は認知症予防をテーマにしたリーフレットを作成し啓発活動をおこなう。 | 4 | ・各種団体を通じて、介護予防活動が活発に行えるよう支援をしていました。媒体を用いた啓発は、より広く介護予防の取組を啓発するためには、重要な取組ですので、継続を期待します。 ・今後の取組に向けた市民ニーズの把握も行っていることから「4」と評価しています。把握したニーズに沿った取組を期待します。 |
| 4)「せつつきいき健康づくりグループ」への支援を通じた地域での介護予防の場づくりとその展開を行っている。 | ・「せつつきいき健康づくりグループ」への支援を通じた地域での介護予防の場づくりとその展開を行っている。 | 3 | ・健康づくりグループの会議を開催（総会1回・全体会議2回。プロジェクトチーム会議4回） ・フレイルをテーマに日常からできる運動と栄養に関する勉強会を2日間に分けて開催した。 ・令和4年度に新規加盟をした健康づくりグループ2件へ訪問した。 | <課題> ・健康づくりグループの活動をコロナ禍前のように活性化していく必要がある。 <今後の取組> ・今年度は、勉強会に加えて、コロナ禍前のように健康づくりグループ交流会も開催をする。 ・社協ニュースなどを通して、市民へ健康づくりグループの啓発をおこなう。 | 3 | ・市の協力のもと、健康づくりグループの会議や勉強会等を実施していました。 ・今後、社協ニュースなどを通して、グループとして活動することのメリット等を周知していただくよう期待します。 |
| 5)介護保険サービスを利用していない要支援認定者へのアプローチ | ・通所型サービスCや高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）の利用につながりそうな要支援認定者へのアプローチを行っている。 | 3 | ・月に1度、市役所高齢介護課、保健センター間でケース会議を開催した。対象となりうる34名に包括がアプローチをし、7名が通所型サービスCの利用へとつながった。 ・ケアマネ部会にて高齢介護課、保健センターとの3者で居宅のケアマネジャーを対象に通所型サービスC利用向上に向けた勉強会を実施した。 | <課題> ・市民にも通所型サービスCやつどい場の啓発が必要である。 <今後の取組> ・これまで通りの活動を継続する。 ・高齢介護課、保健センターと包括の3者で、高齢者に関わる民生委員や社会福祉協議会の職員を対象に介護予防の啓発をおこなう。 | 4 | ・月に1度、高齢介護課、保健センター、地域包括支援センターでの会議を通じ、骨関節系疾患やフレイル等の身体機能の低下防止や向上の見込める人を対象に、アプローチを行い、通所型サービスCの利用につなげていることを確認しました。 ・通所型サービスCのより広い普及に向けて、ケアマネ部会と協力の上、ケアマネジャー向けの勉強会を開催したことから「4」と評価しています。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-------------------------|---|---------------|--|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援事業 | | | | | | |
| 自立支援に向けたケアマネジメント | 上記の「4. 介護予防ケアマネジメント」に記載。 | — | — | — | — | — |
| 直営担当件数 | <ul style="list-style-type: none"> ・3専門職種、介護支援専門員のそれぞれにおいて、職員の直営担当件数に偏りがなく、適正な件数となっている。[3専門職種の1か月あたりの直営担当件数：10件を標準] [介護支援専門員の1か月あたりの直営担当件数：40件以上] | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・3専門職種、介護支援専門員それぞれが直営担当件数に偏りが無いように確認している。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> ・委託先の介護支援専門員の退職等により委託先より包括に戻ってくる件数が多く、また新規対応件数も増えており包括の直営件数、3専門職の対応件数が増えている。 <今後の取組> ・職員を担当件数を確認し、3専門職の担当件数を適切な件数に減らす。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・直営件数について、3専門職は月平均13.3件、介護支援専門員は月平均42.6件担当していることを確認しました。 ・委託先職員の退職等により、年間91件について担当者の調整を要し、うち40件を直営で受け持つことになったことを確認しました。また、直営の担当件数が増えていることを確認しました。 ・令和5年度から短時間雇用の「登録型介護支援専門員」の募集を開始するため、3専門職の担当件数の軽減につながるよう期待します。 |
| 委託の適正化 | <ul style="list-style-type: none"> ・委託先の指定居宅介護支援事業所が作成する介護予防サービス計画の原案が適切に作成されているか内容の妥当性等について確認を行っている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・委託先から提出された介護予防サービス計画の原案は受付時に窓口対応の職員がチェックし、不備等があれば担当職員が1か月以内に委託先の介護支援専門員に連絡を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> ・要支援認定者数の増加により対応に時間を要している。 <今後の取組> 委託先のケアマネジャーに対し小規模の研修会を開催し介護予防ケアプラン作成のスキルアップを図る。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・委託先から提出された介護予防サービス・支援計画書を確認し、確認欄に押印していることを確認しました。 ・ほぼすべての計画について、確認欄の押印のみで、地域包括支援センターの意見の記載は行っていないとのことでした。意見欄の記載は法定上の必須ではありませんが、サービス利用者に対して介護予防や自立支援、あるいは目標達成に向けたサービスの利用についての意識づけを行う重要な機会となります。特に新規利用者の計画で意見欄の記載について検討を行うように求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|------|--|---------------|---|--|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| | ・委託先の指定居宅介護支援事業所が評価を行った際に、評価の内容について確認を行っている。 | 3 | 委託先介護支援専門員から提出された評価、支援経過を確認し包括職員がコメントを記入している。 | <課題> ・要支援認定者数の増加により対応に時間を要している。 <今後の取組> 委託先のケアマネジャーに対し小規模の研修会を開催し介護予防ケアプラン作成のスキルアップを図る。 | 3 | ・委託先の指定居宅介護支援事業所から提出された支援経過や評価表から目標の達成状況について確認し、意見を記載していることを確認しました。 |

● 「令和4年度認知症総合支援業務委託仕様書」に基づくもの ●

| | | | | | | |
|-----------|--|---|--|---|---|---|
| 認知症総合支援業務 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症支援プロジェクト会議を実施し、プロジェクトチーム員の主体的な活動を促している。 [認知症支援プロジェクト会議の開催回数] | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 「認知症支援プロジェクト会議」の開催回数：定例会議5回。コアメンバー会議3回。 地域ケア会議にて、訓練の啓発をおこなった。 「認知症ひとり歩き声かけ模擬訓練」をデイハウスました・ゆうゆうホール鳥飼西・摂津市立コミュニティプラザで開催した（年3回）。今年度から摂津警察署と連携をしている。 認知症ケアパスと資源集を改訂した。 認知症サポーター養成講座に講師として協力（年3回）。 認知症カフェ運営等会議を開催し情報交換をした（年1回）。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 引き続き、啓発活動が必要。 <今後の取組> 「認知症ひとり歩き声かけ模擬訓練」を次年度も3回実施する。引き続き認知症サポーター養成講座に講師として協力していく。 図書館と連携した認知症啓発イベントを11月に開催予定。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症支援プロジェクト会議等を通じて、プロジェクトチーム員や警察署等の関係機関とともに「認知症ひとり歩き声かけ模擬訓練」等、認知症の人を地域で見守る体制作りに取り組んでいることを確認しました。また、取組を地域ケア会議中学校区全体会議で共有し、啓発に取り組んでいることを確認しました。 市とともに、認知症サポーター養成講座に講師として協力していただく際に取り組を発信し、認知症サポーター養成講座受講者の中で希望される方が、訓練の参加等の活動につながるような取組を期待します。 |
|-----------|--|---|--|---|---|---|

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|------|--|---------------|---|--|------------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| | <ul style="list-style-type: none"> 総合相談において認知症の相談を受けている。 [認知症相談の件数] 訪問対象者に該当する場合に、認知症初期集中支援チームとして支援を行っている。 [認知症初期集中支援チームへの相談件数] [認知症初期集中支援チームの支援件数] | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 総合相談において認知症の相談対応を行っている。 [認知症相談の件数286件] [認知症初期集中支援チームへの相談件数8件] 総合相談で受診勧奨等の支援をするが受診等に至らないケースが主であった。 チームでの対応を想定して訪問したが、実際はかかりつけ医があったり、精神科等との連携を急ぐケース等で包括での対応になったケースもあった。 [認知症初期集中支援チームの支援件数2件] チーム員会議を3回開催。サポート医の診察を調整できたことで、早期から医療・介護サービス等を利用し安定的な支援を目指すことができた。 | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も認知症の相談件数は増加していくことが予想される。総合相談とチーム員の対応の迅速な連携や体制の強化により円滑な支援を目指していく。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の正しい理解と対応方法、相談窓口の周知活動を継続する。 地域住民や行政・他機関との連携を図り対応していく。 | 3 | 認知症にかかる相談について、チーム内で検討し、事案の内容に応じて、チーム員での支援だけでなく、包括の総合相談として丁寧に支援を実施されていました。 |
| | 平均値 | 2.97 /4 | | 平均値 | 3.12 /4 | |